

一年を振り返って、お気づきのことがありましたら教えてください。

(投稿順)

| 保護者からのご意見   | 園からのお返事   |
|---|---|
| <p>天気がいい日やあたたかい時期になると、お迎えの混む時間帯に近くの駐車場に車をとめたまま園庭で子供たちを遊ばせておしゃべりをするママたちが多いので、駐車場がいっぱいになり、自分たちはすぐ帰るのに離れた駐車場にしか停められないということが多々あったので、モヤモヤした気持ちになったことはありました。</p>  | <p>降園後に園庭で遊ぶ場合は、第三駐車場の利用をお願いしていますが、そのお約束が完全に守られていない状況も感じております。皆さまに気持ちよく駐車場をご利用いただけるように、定期的にお知らせしていきたいと思っております。</p>  |
| <p>唯一気になることといえば、給食の野菜がちょっと少ないような・・・とったりもします。</p>  | <p>酢の物やサラダ等で一日に摂取して欲しい野菜の量は提供しておりますが、月齢に合わせた摂取量についても考慮していきたいと思っております。</p>   |
| <p>登下校の際に軽く最近の出来ことを教えてくれると助かります。何々ができたとかこれにチャレンジしているなど。</p>   | <p>降園の際に、なるべくお子さんの姿などをお話させていただくようにしておりますが、日によっては、お迎えが集中してしまうことや、担任が対応できないこともございます。ご了承ください。できるだけその日のお子さんの姿をお知らせできるように努めてまいります。連絡帳等でもお知りになりたいことなど、ご遠慮なくお尋ねください。</p>   |
| <p>過去の出来事にはなりますが、少し気にしている事が、〇〇の額にはよく見みると爪での引っ掻き傷が残っています。どうする事も出来ませんが、せめて他所様には同じ思いはさせまいと爪のケアを我が家では心がけています。その様にしている事もあり子ども園ではどの位の頻度で確認したりしているのかな？と気になったりします。正直言って自分は子供同士による怪我等はお互い様感が分からなくもないのですが、妻が無言で〇〇のおでこを眺めているのを見ると、何と云ってやるべきなのか言葉が出てきません。先生方もご多忙かと思いますが再発防止対策をお願い致します。</p>                    | <p>ご意見をいただき申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。また、すぐに爪の状態を確認するとともに、今後も爪の状態を確認し、ケアを行っていただくようお願いしてまいります。再びつらい思いをおかけしないように、努めてまいります。</p>   |
| <p>降園後の園庭あそびは禁止ということにはできませんでしょうか？だれか遊んでいるとぼくも遊びたいとなったり、逆も然り。うちの子が遊んでいるとあとから来た子がぼくも一緒に遊びたいとなって帰るタイミングを逃してしまっています。保護者が時間を決めて帰るよと話すべきなのかもしれませんが、なかなか難しいのが現状です。</p>   | <p>子どもたちは好奇心が旺盛で、興味をもったことに向かい遊び始めます。遊び始めると集中して…終わることが難しいこともあります。お子さんが何に興味を持ち、どんな気づきをして楽しんでいるのかと一緒に遊び探っていただくと、お子さんの遊びの展開によっては、声掛けによって納得して遊びを終えることができる場合もあります。また、園だより2024年3月号※でも触れさせていただきましたが、保護者の方の素直な思いや困っていることなどをお子さんに話し対話してみたり、年齢によっては社会性のこと大切にして願いを伝えたりしながら、“お子さんが納得できるように”子育ての一環として関わってみてください。時には、親子関係のもと、お子さんの思いも受け止めつつ、説得してみるのも良いのではないのでしょうか…。</p> <p>※詳細は別紙、令和6年3月 園だよりもご覧ください。</p>  |
| <p>準備物に関して、余裕を持って連絡して下さるのでとても助かっています！日常の写真の更新が、毎月何日と決めていただくと、あれ？どこまでみたっけ？以前は何月何日までだったっけ？とならないので嬉しいです！園庭のおもちゃ片付けのところに鍵をかけてくださるようになって、ありがとうございます。以前は帰り際におもちゃもだしてたくさん遊んでいる子がいて、帰るにもなかなか帰れなかったの。。。と、いっても、それだと〇〇家いつも帰るのに苦戦して長居してしまっています。連絡帳に関して、毎週写真付きで書いてくださり本当にありがとうございます。お忙しい中、先生たちすごいなあと思ってます。</p> | <p>日常の写真の更新につきまして、率直なご意見をいただき有り難うございます。不定期の更新で混乱させてしまっていることを認識いたしました。ウェブページでの日常写真の公開は、2003年（平成15年）のウェブページ開設とともに始まり、当初より園長が担っています。開設後、幼稚園時代の8年ほどは、毎日更新しなければ…という使命感で写真の撮影も一手に担い、夕方はホームページビルダーと向き合う日々で、とにかくタイムリーな更新を心掛けておりました。認定こども園になり、クラス数や職員数の増加に伴い、撮影は現場の先生が担うようになり、それに伴い撮影枚数も激増しました。しかしながら、広く公開するもの（パスワード制限をかけていますが）なので、更新作業を先生方をお願いするという発想を持ったことがなく（現場の本業に専念して欲しいのと、任せるのがちょっと心配…）、今も更新は園長が担っています。ウェブページでの日常写真の公開における思いとしては、保護者の方が見ることができない日常の様子をお見せしたい…という、とてもシンプルなサービス精神がスタートでしたが、お子さんの日常の姿をお楽しみいただくだけでなく、公開することによる安心感や信頼関係の構築につながることも感じておりますので、今後も続けていきたいと思っております。様々な状況で、更新作業が少し疎かになってしまっていますが、楽しみにいただいている声にお応えできるように、定期的な更新に努めてまいります！</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>夏にサンダルをこども園に持って行き、家にずっと無かったので少し困りました。必要な時は持って行くようにしていただくと助かります。</p>   | <p>子どもたちが遊びやすいように、置き靴などを置いていただいていることもあります。サンダルに関しては季節的なこともあります。年長児のプール学習やハックルベリーの森遊びなどの事前準備の際にお預かりしていたのだと思います。終了次第、持ち帰っていただいておりますが、置き靴のようにならないよう確認しながら持ち帰るようにいたします。</p>  |
| <p>購入するものの値段を記載してほしいです。雪の時期、月曜金曜の荷物が多く大変なので、スノーウェアの持ち帰り頻度を少し減らしていただくと助かります。先生方とっても大変そうなので、先生の数が増えたらいいなと思います。</p> | <p>購入するものに関しては、新入園児健康診断時に配布する教具・教材についてのお手紙に全て掲載しておりますが、若干の価格変動がある場合もありますので、購入時期に配布する手紙にも記載できるように配慮いたします。スノーウェアに関しましては、週末、ご家庭で使用の方も多く、基本持ち帰るようにしています。毎週の持ち帰りが不要でない場合は、担任の方にお伝えください。</p> <p>職員の大変そうな空気を感じさせてしまい、申し訳ございません。みどりこども園は115人の定員に対して、保育職26人（育休1人含む）、看護師2人、厨房スタッフ6人、事務、バス関係、園庭農園管理など6人と、基準以上の職員で運営しております。そのため、予算上の人件費率は非常に高くギリギリのところですが、何が有っても良いように…、もっと働きやすい職場になるように…、もっと良い環境になるように…と、引き続き職員の募集をしているところです。また、職員間の同僚性の向上や連携力で助け合って運営していますが、子育て中の職員も多く、様々な状況によってお休みが重なることがあり、そんな時は、通常よりは余裕が無いように見える場合があるかもしれません。今後も同僚性を高めつつ、より柔軟な連携力で安心を感じてもらえるように努めてまいります。</p> |
| <p>遊具設置などお手伝いできることがあれば案内をお願いします。</p>   | <p>昨年度は、老朽化した複合遊具の解体から、ヒュッゲでダイアログなオクタゴンハウスの組立まで、ご協力をいただき感謝いたします。保護者の皆さまと“子どもをまんなか”にした環境づくりができることが何より有り難いです。今年度は、第二園庭のツリーハウスからプレイハウスまでをつなぐアクティブな渡り廊下“ドラゴンウォーク”の設置を予定しています。安全上、ある程度専門家の仕事になってしまいますが、私たちができるところを上手に残してもらって、ともに遊びの環境づくりを楽しめたらと思っています。</p> <p>今のところ令和6年6月1日（土）または6月8日（土）にドラゴンウォーク作りを実施できるように調整しておりますが、日程が決まりましたら、あらためてご案内させていただきます。</p>   |

先月は暖かな日があり、春の香りを感じる日がありました。新たな出発のように、香りの漂う方へと足先が向きウキウキしてきます。子どもたちの赴くままに本能的に学びのある方へと向かう姿は、季節と同じように何度も何度も繰り返し巡り、そこで得た感覚や学びは生活の中で確立し、より学びのある生活へと誘います。そこから“社会性”も育まれていきますが、子どもたちはフワ〜とした感覚の世界に生きている生き物ですから、子どもたちの心が現実の社会に順応し、社会性を獲得していくストーリーに簡単な正解はありません。

では、どのようにしたら社会性が身につくのでしょうか…。これは、子育てで一番悩むことでもあるかもしれませんね…。園生活において様々な学びをする子どもたちですが、社会性を学ぶことも集団で生活する環境の中にあり…社会性がすこ〜しずつ育まれる時期になります…(0歳児から5歳児までの育ちの順序を発達理論的に眺めてみますと)0歳児や1歳児の時期は、興味の赴くままに…こまやかな感情を表すようになり…2歳児頃になると興味にも好みが出てくるようで…その子自身が感じ始め少しずつ選ぶことができるようになりますが、ここで当然他の子と重なり衝突することを経験します。そのような時には感情が表れ、泣いたり怒ったりと自分のおかれている今の出来事や感情を先生にわかってもらいたいと甘えるような(信頼)行動を取ります。自分の存在の認識にもなります。3歳児になると、友だちの思いにも気付き自分の思いを表そうとし始め、折り合いをつけてみようとするなど少しずつ集団の良さが出始めます。(社会性の新芽が出始めるような…)4歳児になると、その集団の中で起きた出来事がわかるようになり、自分の気持ちにも気づき、その出来事に寄ったり離れたり…気持ちの揺れをそ〜と感じながら自身の行動を決めるようにもなってきます。そして5歳児になると、今まで育ってきた環境の中で経験したことを活かしたり、体験しながら自分と友達の気持ちの調和を考えるようになっていたり、自ら気持ちや考えを発言するようになります。トラブルにもなりますが、4歳児と違うところは、発言しトラブルになることで新たな考えが浮かぶチャンスになり、集団であるという良さが発揮され遊びが発展していくようです。(学びの姿があります)子どもたちの姿の中に“社会性”が少しずつ育っている時期であることと、やはり社会性は周りの人とのかかわりによって育つものであると感じますね…。(以上は、あくまでも育ちの順序的な姿で、実際には、一つの学年に3学年〜4学年分の育ちが見られ、また、その育ちの姿が早く現れるから良いというわけでもありません。子どもたちはそれぞれ、個々に豊かな育ちの個性をもっています)ここからは“周りの人とのかかわりによって育つとは?”を身近なことで考えてみたいと思います…。降園後の園庭遊び…帰ろうとせず遊び続けるわが子に帰えるよう促してもなかなか帰らず…『これは母親の私が言い聞かせるべきでしょうか?…』と尋ねられることがあります。どうでしょう…同じようなお母さんいらっしゃるかもしれませんね…。当事者になっていると、帰ってからの家事の忙しさも頭に浮かび、困ってしまうこともありますね…。よくわかります!“大人の言うことを聞かせる”となるととても難しいことです。私も経験済みで(笑)『降園後だけ先生の言うことなら聞くから言ってくれないかなあ…』と思われることもあるようですが…すぐ後には“その場は聞き入れてくれても…いやいやわが子のことだから親である私が伝えるべきだ”と思うお家の方。(社会性を育むという思いも浮かんたり…親としての我が子への真剣な思いが感じられます。すてきです)さてどうでしょう?“社会性”をどう捉えましょうか?こうすべきだと決められたものがあり、パズルのようにピースをはめていくような感じに受けとってしまうこともあるかもしれませんね。私はこう思います。それはむしろ『**こうしていったらどうか**』と自分の考えを伝えながら整えていくものではないかと…。大人である私たちが経験をしてわかってきたことなどを大事にしながら子どもに伝え、子どもの思いにも耳を傾け、合意のもとより良いルールとして作り上げていくようなものでもあるように思います。そのルールのようなものを伝えていくには、**子どもたちの『どうして?』という思いに応える**ような伝え方、接し方をし続けることが大切のように思います。これは『うちの家庭では』『ほかの家庭と同じように』というルールではなく、また、園の方針がということでもなく、**目の前の遊んでいる子どもたちに何に気づいてほしいのか…**“社会性という”裏に視えてくるよりよくなっていく背景を想像できるような言葉がけや行動を自らも、各家庭で大切にしていることも含めた願いをもって、折り合いをつけることができるような働きかけをしながら、**一緒に気づきをしていくことが社会性を育むことになっていくのだ**と思います。まずは、今行っている行動や状況が『**どうしていけないのだろうか**』『**どうして?**』**に応えるようにすることから**やってみましょう…**その応えに納得**がいけば引き潮のように子どもは聞き入れていくようです。子育て中は、将来のためにいろいろなことを教えるというふうになってしまうかもしれませんが、子どもたちが何かを身につけていくためには「一方的ではなく」対話的にやり取りをしてルールや節度を伝えていくことが大切であるとおつくづく思います。まずは、家族の間で対話をしながら子どもも親も自分の気持ちを伝えられるという環境をつくることから、あれやこれやと考えていきましょう…。その時には自分中心になっていないだろうか、考えている自分の頭の中に必ず相手がいる大切にしているだろうか、まああるいままある円形のイメージで考えていけると良いですね。まず我が家の大切にすることを決め、社会性について対話をしていきませんか?

…より良い“社会性”とは、自分にも相手にも**やさしい**はずです。ゆるいということではなく守るべきことを厳しくも納得するという最終に合意の気持ちに至れば、それは“**やさしい**”ということになります…。合意に至るには対話が不可欠ですね…言葉で表現することだけではないので、自分の素直な気持ちと相手を想う気持ちをもっていろいろと対話をしてみたいかがでしよう…。

今年度も、あと1か月となりました。保護者の皆様にはあたたかいご支援とご理解を賜りましたこと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。